

先週の説教要旨

「十人のおとめの譬え」井上隆晶牧師
Iテサロニケ5:1~8
マタイ25:1~18

①【皆が眠り込んでしまう信仰のない、よこしまな時代】この譬え話の中で、花婿とはキリストのことであり、花嫁は教会を、花嫁の友人である10人のおとめたちとはキリスト教信者を意味しています。このうち5人は賢くてともし火と一緒に油を用意していましたが、5人は愚かでともし火は持っていましたが、油を持っていませんでした。

「花婿が来るのが遅れた」(5節)というのは、キリストの再臨が遅れているということです。パウロはこの世は「夜」であるといっています。それはまるでこの世が「光である神」のいないかのような世界であり、先が見えないからです。また夜ですからみんな眠くなるのです。聖書では「眠る」というのは信仰がなくなることです。ここでも「皆、眠気がさして寝り込んでしまった。」(5節)とあります。イエス様は「何と信仰のない、よこしまな時代なのか。」(マタイ17:17)と言われましたが、それほどこの世で信じ続けることは難しいのです。悪魔は神の言葉を単なる夢物語のように思わせ、神の言葉よりもこの世の知恵の方が本物であるかのように錯覚させます。この世の情報量が90%、神の国の情報が10%くらいでしょうか。そうやって人はどんどん闇の中に入ってゆき、何も見えなくなるのです。

②【愚かなおとめと賢いおとめ】真夜中に「花婿だ。迎えに出なさい」と叫ぶ声がすると、おとめたちは皆起き上がり、それぞれのともし火を整えました。ところが5人の愚かなおとめたちのともし火が消えかかっていた。そこで他の

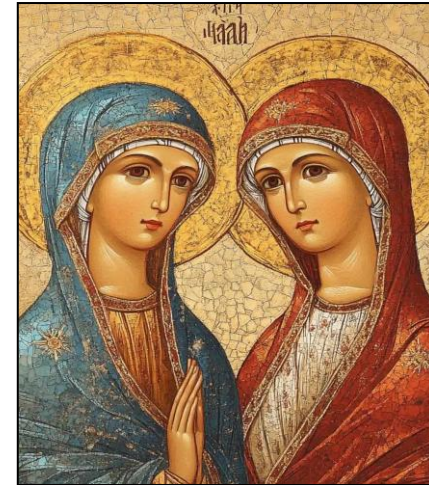
5人の賢いおとめたちに「油を分けてください。私たちのともし火は消えそうです。」(8節)と頼みますが、賢いおとめたちは「分けてあげられるほどありません。それより店に行って、自分の分を買ってきなさい。」(9節)と答えます。愚かなおとめたちが油を買いに行っている間に花婿が到着し、用意のできている5人の賢いおとめたちと一緒に花婿の家に入り、門は閉じられてしまいます。後から油を買ってやってきた愚かなおとめたちが「ご主人様、ご主人様、開けてください。」(11節)といっても、主人は「はっきりしておく。わたしはお前たちを知らない。」(12節)と言われ、家(神の国)に入ることはできませんでした。私はこの譬え話を読むと不思議で仕方がないのです。なぜこの愚かなおとめたちは油を用意しなかったのでしょうか？この教会はランプの多い教会ですから、私はいつもカップを覗いて蠟燭の量をチェックしています。そして足りないと思ったら、すぐに仏壇屋に蠟燭を買いに行きます。そうでないと礼拝の時に火が消えてしまい役に立たないからです。同じように、花婿が遅くなりそうだと分かったなら、なぜ自分のランプの中を覗かなかったのでしょうか。覗いて見て油が少ししかないことに気がつけば、これではとても足りないと分かり、準備をするのが普通なのです。つまり愚かなおとめたちは、自分のともし火をチェックしなかったということです。ともし火とは、10人のおとめが皆、持っていたものですから信仰を意味しています。その信仰を聖書の言葉でチェックするのは、キリストの前に立った時に、自分の信仰で通用するかどうかを考えてみなければなりません。この愚かなおとめたちは、キリストを目の前に置いて生きていないように感じます。↑

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立1957年12月1日 教会設立2001年12月2日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町2-6-17
TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120
Eメールアドレス: 3533osgm@jcom.zaq.ne.jp
ホームページアドレス: <https://miyakojima-church1.com>
郵便振替00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所
主任牧師 井上隆晶

2026年3月8日 No.1862



《ベタニアのマルタとマリア》

都島教会の2025年度の宣教方針

標語 《会堂建築の準備をしよう》

聖句 「主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなし。」(詩編127:1)

2025年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均28名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 信徒の交わりを大切にします。
- 4 会堂建築のための具体的な準備を進めます。